

地方
小出版

情報誌

アクセス

毎月1回	1日発行
購読料	定価 150円 (本体 143円)
	年間 1,500円 (税込み)
振替	00120-0-19017

発行所 (株)地方・小出版流通センター
編集 アクセス編集委員会

〒162-0836 東京都新宿区南町20
TEL.03-3260-0355 FAX.03-3235-6182

印刷屋が地産地消出版へ —□■□■□

地元だからこそ作ることができ、地元の人が喜んで読んでくれる

文・株式会社文伸／ぶんしん出版 川井信良

30年前に都内出版社の仕事をいただく

もう30年前のことになるが、都内の理工系出版社と工業系新聞社の出版部門の仕事をお願いした時期があった。両社は市ヶ谷と九段下という、印刷会社には不自由しない立地であったにもかかわらず、三鷹にある弊社に文字組版と印刷の仕事をお願いしてくれた。

その理由は、数式が入る難易度の高い組版が求められたことと、500部から1,000部の小ロット出版であったことだと記憶している。当時、印刷業界は活版、写真植字(写植)、和文タイプライターという三つの組版方式があったが、それぞれ数式組版には高度な技術が必要だった。

弊社でも、写植機を導入していたが、当時の手動写植機は、文字の位置を示す黒点のみが点字板に表示されるといって、恐ろしく集中力と想像力が必要とされる組版機であった。そこで威力を発揮したのが、和文タイプの清打ち方式である。白い紙に、カーボンテープをはさんでタイプ活字を打ち、印字する方法である。字画数により打つ時の力加減が難しいのだが、なによりも数式の仕上がりを目で確認しながら作業できるのがいい。これを版下にして、オフセット印刷をするのだが、ここでも、いわゆる軽印刷方式が威力を発揮した。

当時の一般的なオフセット印刷は、版下を製版カメラで撮影し、フィルムを現像し、それをアルミベースのPS版に焼付けて処理されたものが刷版になり、それを印刷機に装着して印刷す



創業50周年記念事業に発行した
井の頭公園100周年カウントダウン新聞

るといふ流れだった。一方、軽印刷方式は、版下から直接紙ベースの刷版を作ってしまうというダイレクト方式で、さらに版材に紙を使っている点に特徴があった。当然、製版フィルムの工程が無く、アルミベースを紙ベースにしているので早くて安いことになる。もちろん良い事ばかりではない。写真などの細かい網点の再現性が悪い。紙ベースなので、1,000枚ほど刷ると伸びてくる。耐刷数がせいぜい3,000枚などである。しかし、写真が入らない文字だけの冊子で1,000部以下のものなら、これほどコストパフォーマンスの高いものは無かったのである。

この知識と既存設備で本が作れる

その仕上がりとは価格は、出版社を満足させ、プロが見ても、タイプに紙版の組み合わせとは見抜けなかった。正に、高度組版が要求される小ロット出版には最適な組版と刷版の組み合わせ方式だったと思う。

以来十年間ほど仕事をいただいたが、そのうち写植機も改良が進み、そ

れに伴い価格競争も起こり、お声がかからなくなった。しかし、この十年間は商売以上に収穫があった。組版ルールから品質管理まで、出版物制作の基本を学ばせていただいたのだ。

この知識と既存設備で本が作れる。そう思った。そこで始めたのが自費出版事業だった。自費出版制作は、今までの仕事には無いやりがいを教えてくれた。著者と伴走しながら、その思いを形にしていく作業が新鮮でおもしろかった。このころ同じように、印刷業が主体だけど、自費出版事業も始めた業者が集まって、自費出版ネットワークが誕生した。

自費出版物への顕彰と制作知識の向上が目的で設立した会は、2004年NPO法人日本自費出版ネットワークとなり中山千夏が代表理事となっている。それ以前の草創期に、地方・小出版流通センターの川上氏に講演を依頼し学習会を開いたが、厳しくも温かい自費出版物への叱咤激励を頂いたので記憶している。

末期が背中を押したと思った

その後、自費出版事業を通して教えられた本の発信力と存在感に大きな魅力を感じ、一般の出版にも興味を持ち始め、しばらく勉強会を開いた。結局一歩踏み出したのは、七年前だった。なぜか急に、このまち三鷹・武蔵野にこんな本があったらいい、こんな本をつくりたいという今までの気持ちが膨らみ、本業の合間のママゴトのような出版事業が始まった。

最初の書籍『戦争の記憶を武蔵野に訪ねて』は、地元にあった軍需産業中島飛行機武蔵製作所の紹介や、空襲などによる「戦争遺跡」を紹介する本である。著者は地元の高校教師であり、「武蔵野の空襲と戦争遺跡を記録する会」メンバーの二人の手によるもので

あった。

発行予定は2005年8月。しかしその時、急に出版しなくなった理由のような事が起きた。ステージIV期のBという末期の中咽頭がんが見つかったのだ。術後生存率が30%切るという現実を知らされ、少しでも何か残したいという気持ちが背中を押したのだと、勝手に解釈した。

そう言いながらも、本業の合間のママゴト出版状態は続き、結局現在まで、『井の頭公園まるごとガイドブック』『元祖太宰マップ』『戦争の記憶を武蔵野に訪ねて増補版』『懐かしの吉祥寺昭和29・40年』『TOSHIKOらくがき帳』『戦時下の武蔵野I』の七冊という状態である。

ママゴト出版から地産地消出版へ

そんな、ママゴト出版から抜け出して、しっかり出版事業をやってみようと思ったのが昨年。

治療後五年経ち、再発は無いとお墨付きを頂き、合わせてやっと病気前の体力気力に戻ったと実感した年だった。元気なうちにつくりたい本を作りたい、出版事業の基礎を作っておきたい、と切に思った。

このまちにあったらいいなと思われる本を作るのだ。地元だからこそ作ることができ、地元の人が喜んで読んでくれる、正に地産地消出版だ。先輩諸兄のご指導のもと、ママゴトから一歩踏み込むつもりである。どうかよろし

くお願いしたい。

井の頭公園 100周年カウントダウン新聞発行

最後に、今年創業50周年を迎えるにあたり、記念事業として地域にある井の頭公園に感謝しようと、井の頭恩賜公園100周年カウントダウン新聞『いのきちさん』を発行した。約6年間の時限発行だが、地域の皆さんに井の頭公園の歴史や生き物たちを伝えるフリーペーパーとして届けていきたい。もちろん、2017年の100周年の年には、連載記事をまとめ、冊子にして発行する予定である。

(かわい しんすけ・株式会社文伸／ぶんしん出版代表取締役社長)

新刊ダイジェスト

※価格は総額(税込)表示です。

『僕は本をつくりたい。』 ●荒木スミシ著



著者は小説家、兵庫県加古川市で出版社を営む。自分の本を出すため出版社を立ち上げた経緯、体験した失敗や努力を等身大で描いているのが本書だ。本が売れないと言われる時代に、なぜ自分の本を出版したいひとが多いのか。「本をつくりたい」は「自分を発信することにより、繋がりたい」からだと著者。甘ったるくも聞こえるこの思いを、真正面から捉え本や出版に関わってきたのが著

者なのだろう。処女作の成功、突然の病による挫折、一から始めた出版業。小さいからこそ工夫があり現場を読者を捉えられる。「穴ぼこに落ちた時の人間の希望を書きたい」。だから本をつくる。本書は2011年に亡くなったウィンドチャイム・ブックスの永井宏氏に捧げられている。

◆1365円・115mm×182mm・231頁・ノンカフェブックス・兵庫・2011/11刊・ISBN978-4-9905303-1-0

『未踏の野を過ぎて』 ●渡辺京二著

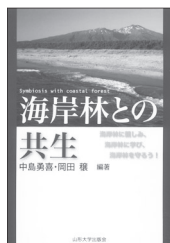


日本近代史家として80歳を過ぎてなお旺盛に、熊本の地から近代文明に対する根源的な問いかけを続ける著者。長く世にあった者として、人間とは何者なのか、社会はどうすればいくらかでもましなものになるのかを考える責任があるとの強い信念から、経済、近世社会、言葉と文章など多方面に及んで世相を論じたエッセイ集。今回の震災には沈黙を守ってきたが始めて筆を執り、メデイ

アや人びとの反応を、人類史は災害史であり無常は隣人であったのに、人類の記憶を失い人工的世界の現在に安住したが故のうろたえと指摘。質実で心が伝え合え、生きることが喜びである社会にしたいとの思いが滾るメッセージである。

◆2100円・四六判・229頁・弦書房・福岡・2011/11刊・ISBN978-4-86329-063-1

『海岸林との共生 —海岸林に親しみ、海岸林に学び、海岸林を守ろう!』 ●中島勇喜著



「白砂青松」は、佐賀の「虹の松原」や京都の「天の橋立」をはじめ、日本列島各地の海岸林の象徴的な風景を示す。海岸林は、江戸時代から現在まで人の手によってつくられたクロマツを主とする人工的な林である。その役割は、海岸地帯の畑や集落を飛砂や潮風、津波から守るための減災、防災である。加えて景観を良くし人々に快適な環境を与える。現在、松くい虫による松の枯死、林内

のジャングル化やゴミ捨て場化、開発による海岸林の消滅など多くの問題に直面している。

今後は、地域の共有財産として海岸林をとらえ、クロマツ一種の単純林から広葉樹を入れた混植化を進める。また海岸林は生物の保全活動や環境教育の場としても最適で、その活用が期待される。

◆1500円・A5判・218頁・山形大学出版会・山形・2011/10刊・ISBN978-4-903966-10-6

売行良好書

期間：2011年12月16日～2012年1月15日

【出荷センター扱い】※税込み価格

- (1)『医者現場でどう考えるか』2940円・石風社 (2)『わたし、少しだけ神さまとお話できるんです』1470円・文屋 (3)『未来ちゃん』2100円・ナナロク社 (4)『世間遺産放浪記 俗世間篇』2835円・石風社 (5)『津波 TSUNAMI!』1680円・グランママ社 (6)『心がもっと軽くなる』1575円・アートヴィレッジ (7)『きょうのスープ101』950円・ベターホーム出版局 (8)『本土の人間は知らないが、沖縄の人はみんな知っていること』1365円・書籍情報社 (9)『赤いおおかみ』2415円・古今社 (10)『北風とぬりえ』1680円・天野祐吉作業室 (11)『未踏の野を過ぎて』2100円・弦書房 (12)『言葉のフーガ 自由に、精緻に』2520円・四明書院 (13)『京都の電車』1575円・トンボ出版



【三省堂書店神保町本店4F—センター扱い図書】※税込み価格

- (1)『東京かわら版 1月号』420円・東京かわら版 (2)『未来ちゃん』2100円・ナナロク社 (3)『昭和プロレスマガジン 25』1000円・昭和プロレス研究室 (4)『未踏の野を過ぎて』2100円・弦書房 (5)『改訂増補 近世枳木の城と陣屋』1995円・随想舎 (6)『フリースタイル 17』932円・フリースタイル (7)『自然対数の底100万桁表』284円・暗黒通信団 (8)『静岡の城』1680円・サンライズ出版 (9)『酒とつまみ 14号』400円・酒とつまみ社 (10)『戦国武将・宇喜多四代』1050円・吉備人出版

【ジュンク堂書店新宿店—センター扱い図書】※センター出荷データより/税込み価格

- (1)『昭和プロレスマガジン 25』1000円・昭和プロレス研究室 (2)『医者現場でどう考えるか』2940円・石風社 (3)『未来ちゃん』2100円・ナナロク社 (4)『本土の人間は知らないが、沖縄の人はみんな知っていること』1365円・書籍情報社 (5)『高尾山・景信山・陣馬山登山詳細図』735円・吉備人出版 (6)『意識の宇宙』のアリス』1890円・アーバンプロ出版センター (7)『世間遺産放浪記 俗世間篇』2835円・石風社 (8)『おすすすめ文庫王国2012』798円・本の雑誌社 (9)『世界の木屋さん見て歩き』2520円・出版メディアパル (10)『嵐山光三郎ぶらり旅』1300円・北國新聞社

以下ホームページでも各種情報提供を行っております。ご利用ください。
本と出版流通のページ：<http://neil.chips.jp/>

トピックス — ★★★

▼『石原純随筆集』のこと

「以前、神保町の書肆アクセスで置いてもらっていたのですが…」当センターの小売部門だった書肆アクセス閉店から4年を経た最近でも、こう言って小さな出版社や編集者の方が新しく作った本を送ってくださることがあります。エスコム出版『石原純随筆集』(7140円 ISBN978-4-9906101-0-4)もそんな本の一つ。石原純は、1875年生まれの物理学者で歌人。1922年のアインシュタインの来日時に通訳を務めたり、日本に相対性理論を紹介したり、と物理学の啓蒙に大きな役割を果たす一方、『アララギ』の発刊に参加し、同人の原阿佐緒と不倫騒動を起こして大学を辞職するなど、歌人・文学者としての顔ももつ。編者の和田耕作氏はこれまで『石原純歌論集』(ナテック刊6090円)『石原純全歌集』(同7035円)を世に送り出し、また『石原純 科学と短歌の人生』(同5040円)の著書がある方ですが、病気でしばらく入院し、療養につとめていたとのこと。そこへ突然襲った東日本大震災と原発事故。科学の啓蒙に尽力した石原純の「科学的精神」という理念が、いたずらに右往左往する日本の現実に寄与するところがあるのではないかと。そんな思いが、この『石原純随筆集』復刻の大きな原動力になったとのこと。この本は現在直販のみの扱いで、一部の直接取引店にだけ卸しています。

郵便販売のご注文方法

◎お名前、お届け先(郵便番号、住所)、連絡先お電話番号、ご注文品の書誌名、冊数の必要事項を明記のうえ、下記までFAXでご連絡ください。

◎送料は、冊子小包・メール便共実費でお送りさせていただきます。基本的にメール便は、一冊210円でお送り致します。(メール便の到着は、発送してから3～4日かかります。)お急ぎの方、その他ご要望がございました場合はお気軽に下記までお問い合わせ下さいませ。

◎なお書籍お買上総計(税抜き価格)が5,000円以上の場合は、送料をサービスさせていただきます。

★地方・小出版流通センター

FAX: 03-3235-6182

地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。

三省堂書店

営業の
ごあんない

神保町本店 4階 地方出版・小出版物フロア

営業時間 10:00 AM～8:00 PM
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1
TEL. 03-3233-3312(代)
URL. <http://www.books-sanseido.co.jp>

本店4階売場では、地方・小出版流通センター扱いの新刊全点のほか、地域別に書籍を取り揃えております。また、地域ならではのタウン誌、趣味の雑誌も扱っております。

